

(幼 - 10)
令和6年2月9日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立荒子幼稚園長

令和5年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点（主題）	幼児の主体性を育む環境の構成 ～未来に向かって、幼児の育ちをつなぐために～	I
------------------	--	---

1 実践のねらい

幼稚園教育の環境を通して行う教育は、幼児の主体性を育み、自ら周りの人や物に関わり、自分で考え、その後も意欲的に活動したり学んだりするための基盤になる。今年度、幼稚園から小学校に向かって幼児の育ちをつなぐために、幼児の好奇心や探求心などを引き出す環境の構成のもと、主体性を育みたいと考える。また、本園が小学校との併設園という環境も生かしながら取り組む。

2 実践のねらいに迫るための手立て

- ・ 併設の小学校と関わりながら、幼児の興味や発達を考慮した環境の構成を考え、実践し、今ある環境がどんな育ちにつながるかを考える。
- ・ 保護者や未就園児、異校種等へ幼児教育の理解を図るため、ICT環境を活用したり、園児との交流及び教師間での話し合いを生かしたりする。

3 実践の内容

- ・ 小学校の運動会の練習をいつでも見学に行ける環境をいかし、保育内容に小学生の刺激を取り入れた。その際、小学生の楽しみ方をまねるだけでなく、幼児の興味や発達に合うねらい・内容を立てて実践した。
- ・ 5年生との交流を年間に5回計画し、園児と5年生が親しみを深めながら主体的に遊び、関われるようにした。幼稚園は、幼児の興味・関心のあるものを用意し、5年生が幼児の気持ちに寄り添う環境のもと、5年生と遊びの拠り所を見付け、幼児が自ら“～したい”と思いを出して遊べるような手立てを小学校教諭に伝えて取り組んだ。

4 成果と課題

小学生の刺激をもとに、自分たちで遊びの工夫する姿がみられた。5年生と幼児が目的や思いを共有する環境ができると、同じ目的に向かって、主体的に思いを出し合って遊ぶことができた。その後も、園児自ら意欲的に遊ぶ力になった。保護者には動画やドキュメンテーション等を使って様子を知らせると、併設園であることや異年齢の子どもと関われる機会は本当によいという評価を得た。学校関係者評価からは、行事・公開保育の参観を通じて、対話的・主体的に取り組んでいるところによさがあるという意見を得た。

5 来年度に向けて

今年度、5年生との交流以外に新たに1，2年生との授業交流、敷地内でつながる中学校の体育大会の見学、西区の西陵高校とZOOMや対面交流など様々な年齢の子どもや異校種との関わり合いをもった。少子化の時代であることや本園が少人数園であることを踏まえ、多様な人と交流をもつことが今後も大事であると考え。それぞれの校種の実情に合わせ、今後も可能な交流のあり方を探していきたい。